



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 19 号

R3.9.1

文責 中西 勉



新型コロナウイルスに打ち勝つために

現在、感染力の強い新型コロナウイルスのデルタ株が猛威を振るっています。それにより、愛知県の新規感染者数は、8月26日（木）に初めて2000人を超え、翌27日（金）には、愛知県にも緊急事態宣言が発出されました。それを受け、27日（金）に予定していた始業式を今日に延期し、昨日までの3分の1分散登校中には、子供たちの心のケアのため、担任との個別面談を行いました。そして、新型コロナウイルスに打ち勝つために、自分にできる感染予防対策はすべてやるという最大級の予防意識を持って行動するように指導しています。今日以降、9月10日（金）までは、2分の1分散登校とオンライン授業を併用し、感染防止と学びの保障に努めてまいります。この正念場を、教職員・児童・保護者が心を一つにして乗り越えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をよろしくお祈ひします。



▲担任と個別に面談する6年生



▲静かに自習する3年生



▲落ち着いて過ごす自主登校教室の児童



シリーズ「東京オリンピック」① ～相手を思いやる心～

夏休み前半に熱戦が繰り広げられた東京オリンピック。「チーム JAPAN」の活躍は目覚ましく、メダル獲得数は「金27個、銀14個、銅17個」の計58個となり、日本のオリンピック史上最高を記録しました。メダル獲得シーンには多くの感動があり、そこから学ぶこともたくさんありました。また、メダルに手は届かなくても、ひたむきな選手の姿から大きく心を揺さぶられた場面もありました。そんな数々の名場面の中から、私が心を打たれた場面をシリーズで紹介していきたいと思ひます。

シリーズ第1回は、柔道男子73キロ級でリオデジャネイロオリンピックに続いて2連覇を果たした大野将平選手の勝者としての振る舞いです。大野選手は、試合に勝っても決して畳の上でガッツポーズをしたり、喜びを大きく表現したりすることはありません。それは、大野選手が試合後のインタビューで、「相手がいる対人競技なので、相手を敬い、(ガッツポーズをせずに)冷静にきれいな礼ができたのではないかと思います。日本の心を見せられる場でもあるので、気持ちを抑えられたと思ひます」と語っているように、相手への思いやりを何よりも大切にしているからなのです。この大野選手の姿勢は、相手意識「ふお～ゆ～」を大切にしている私の心に深く刻み込まれました。大野選手が語っているように、相手を思いやる心の深さこそ、日本人が世界に誇れるところであると思ひます。男川つ子にも、大野選手のこの姿から、相手を思いやる心を学んでもらえるとうれしいです。

